

## 常盤塾議事録

日時：2016年11月12日（土）10：00～13：00

場所：新国際ビル MBFハウス

文責：常盤塾ライター 鈴木雅也、秋元裕太

メンバー：片平先生、松永さん、古川さん、古城さん、今田さん、大下さん、  
松崎さん、丸山さん、松山さん、昌子さん、白井さん、安梅さん

### アジェンダ

1. 今後について
2. 一分間スピーチ
3. 丸山さんの発表 『弱者の戦略』

#### (1) 今後について

今後常盤塾をどう開催するか。

- ・ 12月の常盤塾の関しては、通常通りオフィス開催。
- ・ 1月以降の場所の候補として、常盤さんのご自宅（幕張本郷駅）付近のカフェもしくはホテルの会議室など。
- ・ ご自宅からのSkype参加もあり。
- ・ 今田さん、白井さん、鈴木、秋元のプロジェクトチームを組んで、今後常盤さんのご自宅に一度お伺いする。

#### (2) 一分間スピーチ

##### ・秋元

ニューオータニでのアルバイト経験から、”おもてなしとは・・・”をよく考えるように。ベッドメイキングを通して感じたこと。100-1=0の精神。

##### ・大下さん

火山や天災が起こったのはいつかを考えていくと縄文時代に行き着く。縄文時代の定義の仕方が変わる。九州だけでなく大阪にも火山の痕跡。

#### ・松崎さん

自転車会社とお風呂のことを考える。自転車通勤を奨励するなど、普段の日常生活に自転車を埋め込んでいく。会社に着いて汗を流すのに、シャワーではなくお風呂であることに意味がある。駐車場と銭湯をセットにしたBtoBビジネスが今ブーム。

その一方で、スポーツジムの銭湯化が進みつつある。銭湯に行くより、ジムでお風呂に入る方が安上がり。

#### ・昌子さん

シンガポールのホテルにはバスタブはなかった。シャワーではなくお風呂に入ることによって、血流が良くなる。水圧によるマッサージ効果。健康増進という意味においてお風呂と自転車には多くの共通項がある。

#### ・丸山さん

AIに関して。これまでAIはオフィスワーカーの仕事を奪い取ると言われてきたが、これからは弁護士や医師がAIを使いこなせることは絶対に必要。集積が必要な分野において、膨大な量の症例や判例を蓄積できるのはAIの強み。芸術においても、AIは活きる。レンブラントの絵画の例。

その一方でプライバシーの問題も大きい。AIに対する社会の受容性の問題でもある。人間同士のみならず、人間と機械との間にも信頼関係を築くことは可能では。

#### ・今田さん

丸型LED。ネットで購入し家庭で使用していたところ発火。ビックカメラに問い合わせしてみたところ、日本にはまだ丸型LEDは販売されていないとのこと。おそらく中国製だったのか。

熱をもっているものは概して注意が必要。太陽光パネルは、ある意味屋根に火をつけているようなもの。

函館の信号機。白熱球からLEDに変えたところ、今度は雪が解けなくなって

しまった。人間のやることにはオチがある。

- ・ **安梅さん**

アルゼンチンはワインがたくさん飲める。一方でチリは日本と同じような品数。チリの人マーケティングが上手。

- ・ **片平先生**

人間はもっと人生が短いという前提で生きるべきでは。年齢に0.8をかけた感覚で生きる。20歳ならば16歳として。成人年齢をもっと下げることが選択肢として十分にあり。

洋服におけるマーケティングもそう。お客さんの年齢ちょうどの洋服を売ろうとしても売れない。60歳の人には40代後半の服を勧める。

また、若いという意識だけでなくその逆も必要。20歳の方は30歳の気持ちで生きよう。

- ・ **古川さん**

バングラディッシュの農村には銀行がない。すべての国民に口座を開かせるには、銀行に行って開設ではなく、電話でのやり取り一本でそれができるようにすること。中央銀行総裁が、まさに「みんなのため」に働く姿に感銘。

- ・ **古城さん**

小田垣さんのお話。イノベーションを起こすには好奇心が必要。日本人は変化=困難と捉えるけれど、アメリカ人は逆。変化=チャンス。悲観的に考えない。面白くないと「面白くない」。

- ・ **白井さん**

先入観を捨てて考えることの大切さ。八丈島のくさや。食べてみると意外と美味しい。東京の竹芝でも売っている。

#### ・ 松山さん

ピコ太郎。7400万回ユーチューブで再生。関連動画もすべて含めると、4億5000万回。これは、ある程度人々の間に広まっていたものに、ジャスティンビーバーの一言で一気に火がついた。確実性ではなく、何か一つ人々にウケる要素をもっていること。

チャートの集計方式。アメリカのビルボードは、CDの売り上げ枚数だけでなくYoutubeでの再生回数なども含めたもの。

#### ・ 松永さん

2週間ほど、ヨーロッパへ。シュツットガルトの鉄道などを見学。中小企業をものすごく大切にしている風土。州立のAIの研究所もあり、自分たちではなかなかできない中小企業に対して、それらを経験させる。その上で、何か新しいものを生めば良いという発想。メルセデスやベンツは自分たちでできる。南部はもともと支援が少なかった。

ツールズにおける自動車産業。世間では自動運転技術が叫ばれているが、現地では自動運転よりもEV。テスラの事故もあった。

### (3) 丸山さんの発表 『弱者の戦略』

#### ・ 「強い」の定義

1. 食物連鎖の頂点にいること。
2. 他者を打ち負かすのではなく、生き残ること。

・ 強いものだけが生き残るのではない。強いものの真似をすることがすべてではない。弱者は「誰にもできないこと」というニッチを持つことによって生き残る。

・ 強いものは単純に、弱いものは複雑に進化する。例えば視覚。追う者は狭く深く、逃げる者は広く浅く。

・ 西洋と日本における家紋や紋章の違いに、「何に強さを感じるか」の意識の差が現れる。西洋では虎や鷲のような食物連鎖の頂点に位置するような動物があしらわれていることが多いのに対し、日本では植物がモチーフになっ

ているものが多い。

- ・ 生物界から離れて現代社会にそれらを当てはめてみる。競合企業の存在を認めるのとM&Aは全くもって逆の話。切磋琢磨は、競い合うと同時に互いに認め合うことでもある。
- ・ コンソーシアム。ドイツ車全体が結束して、日本車やアメリカ車に対抗。
- ・ 生きるということに対して、人間のアナロジーで考えてはいけない。イワシやアジの例。群れの中で、たとえどれか1匹が食べられてしまうのは必然であり仕方がないこと。今の世界ではなく次の世界を考えたとき、1匹を犠牲にすることで他の群れ全体が維持できるのであればそうすべきでもある。

### 連絡事項

- ・ 次回常盤塾は15：00～18：00で、終了後は新橋の『末げん』において忘年会の予定。